第 10-14 回 (2018/6/ 12-7/10)	総合演習 北村 由美 准教授（附属図書館）

・総合演習については一貫して班毎に活動。班はインターネット・DB の班を引き継いだ。

■　第 10 回：6 月 12 日(火)

場　所　：学術情報メディアセンター南館 303
参加者　：受講者 17 名　演習補助者 4 名
配布資料：講義スライド / グループワーク課題 RW 登録 / キーワードマップ用紙
/レビュー論文の構造ワークシート/ 課題のプリント/
サポートデスクレポート執筆講座チラシ

➢ 宿題

- レビュー論文を配布し、構造を意識しながら内容を読んでくる。
  配布レビュー論文：佐々木 尚之．フィンランドの家族に関する研究動向．家族社会学研究. 2016, vol. 28, no. 2, p. 234-241.

➢ 講義（50 分）

- 先生の自己紹介・これまでの内容の振り返り

- グループ発表の内容
  ・発表内容：「20 世紀の重要な問題」からグループで選んだテーマで先行研究レビューを行う
  ・発表時間：20 分、全員参加
  ・目標：レビュー論文を目指す
  論文には研究論文、レビュー論文の 2 種類がある。
  レビュー論文とはこれまでに言われていることを振り返り、
  自分たちの視点に基づいて整理した上で、考察を加えたもの。

- 一般的なレビュー論文の構造
  1. イントロダクション（研究の背景、問い）
  2. 研究方法（先行研究を収集する範囲や方法）
  3. 先行研究整理（独自の視点によるレビュー）
  4. 考察（先行研究で言及されていること/いないこと）
  5. 参考文献リスト

☆グループワーク 1
宿題で読んできたレビュー論文について、班ごとに情報共有を行い、ワークシートに箇条書きで記入。
ワークシートの内容は以下のとおり。
1. 問い・著者の問題意識
2. 研究方法
3. 先行研究整理
4. 著者の考察・まとめ

- 発表（レポート）テーマの決め方
  ・レポートのポイントは課題の意図を理解した上で、テーマを設定し、テーマに関する文献を網羅的に収集し、理解すること。先行研究を踏まえた上で、自分の考察を述べ、新しい視点や事実を指摘すること。

  ・本授業の場合は、「20 世紀の重要な問題」で何を取り上げたいか、その問題についてどのような分野（角度）から検討したいか、どのようなキーワードが考えられるか、を考えた上でテーマを決定し、そのテーマについて先行研究の有無を調査することが必要。

☆グループワーク 2（講義終了後の演習で行う）

以下の手順に従って、グループでテーマを再検討し、再検討したテーマについてキーワードマップを作成し、グループ内で共有する。

テーマの再検討の手順は以下のとおり。講義中に具体的な例を挙げて説明した。

1. 事典を引いてみる（What）
2. 4W1H を考える　年代、場所、誰が、誰にとって、なぜ、どのように、どのような 等
3. アプローチする角度（分野）を考える　社会、経済、政治、技術 等

・キーワードマップ作成の際のヒントは基礎知識の確認と関連用語のピックアップ、概念の整理と構造化

- 基礎知識の確認（百科事典）

・基礎知識の確認の方法としては百科事典を引く方法があり、百科事典の例として「Japan Knowledge」を紹介した。

- 概念の整理と構造化

・自分の興味あるキーワードを構造的に考えることで、適正な概念レベルの文献にたどり着ける。

・下位概念になるほど問題が細分化され文献は少なくなり、上位概念になるほど問題が大きくなり関連文献は多くなる。

・テーマを絞ったり、広げたりする際に、下記のような各ツールを活用できる。

NDL サーチ / JST シソーラス / JST シソーラスマップ / Webcat Plus / 新書マップ

➢ 演習 (40 分)

- グループワーク・本日の課題・RefWorks の登録方法・次回までの宿題について説明（7 分）
- グループワーク 2（32 分）
- 北村先生より「初心者向けレポート執筆講座」及びサポートデスクの紹介（1 分）

➢ 課題（宿題）

・調査テーマに関する文献調査

・公益社団法人著作権情報センターHP「著作権って何？（はじめての著作権講座 ）」の一部分を読んで理解してくる。

URL: http://www.cric.or.jp/qa/hajime/

■ 第 11 回：6 月 19 日(火)

場　所　：学術情報メディアセンター南館 303
参加者　：受講者 15 名　演習補助者 5 名
配布資料：講義スライド / 班別キーワードマップ / 課題

➢ 講義（25 分）

- 著作権について
  - 宿題としていた著作権クイズ 5 問の解説
  - クリエイティブ・コモンズの考え方の紹介

- 引用・参照の定義とルール
  - ルールやポイント
    …指定されたフォーマットで参考文献リストを作成する
    自分の文章と引用部分との主従関係を明らかにする
    引用部分は明確化し、出典を明示する
  - バンクーバー方式とハーバード方式の説明
  - 図・表の引用方法
    …出典と加工方法を明記する

・　「引用」「参照」の意味
　…自分の意見や発想の根拠を明示する
　　自分の意見と他人の意見を区別する
　　学問は先人たちによる積み重ねであり、後輩に引き継ぐためにも引用・参照は必要

● 発表のポイント
1. 関連資料を十分に網羅し、読み込んでいるか
2. 関連資料のポイントを的確にとらえられているか、他の人に分かりやすく伝えられているか
3. 各グループならではの着眼点で、先行研究を考察できているか
4. 分かりやすい資料が作成できているか（フォントサイズ、図の利用、目次の挿入）
5. 魅力的なプレゼンができているか（導入、アイコンタクト、声の大きさ）
6. 引用と文献リストの書式をおさえられているか

➢ 講義（20 分）
● RefWorks の使い方
・　文献管理ツールとは何か
・　ログインの方法
・　各種論文データベース（KURINE / CiNii Articles）から RefWorks への論文情報の取り込み方
・　フォルダ整理とレコード編集、コメント機能について
・　RefWorks を利用して参考文献リストを作成する方法
・　RefShare を利用して文献リストを共有する方法
＊受講者には、事前に RefWorks のアカウント登録を行ってもらった。登録ができていない受講者にはその場で登録してもらった

● 学習支援サービス PandA による課題提出・資料の共有について

➢ 演習（45 分）
● グループワーク
・　各自が持ち寄った資料をもとに発表準備を進めた
・　教員と補助者、学習サポートデスクのスタッフは適宜サポートを行った

● 発表内容の 1 分間予告
・　各班、発表計画を 1 分程度で説明した
・　北村准教授から、足りない視点や方向性についてフィードバックを得た

➢ 課題（宿題）
・　RefWorks に文献情報をインポートし、RefShare で共有する課題を課した

■ 第 12 回：6 月 26 日(火)

場　所　：附属図書館 1 階ラーニング・コモンズ
参加者　：受講者 16 名　演習補助者 6 名
配布資料：講義スライド

➢ 講義（15 分）
● 発表資料・最終レポート・アンケートについて
・　先行研究の網羅的な調査方法についての確認
・　発表資料・発表方法について
・　学習サポートデスクの案内
・　最終レポートとアンケートの提出方法や締切について
・　発表のポイントについて、過去の発表スライド例をもとに説明
＊発表日を決めるため、くじ引きを行った

➢ 演習（75 分）
- グループワーク
  - 教員と補助者、学習サポートデスクのスタッフは適宜サポートを行った

■ 総合演習発表概要

- 「20 世紀の重要な課題」に関してグループでテーマを設定し、先行研究について調査発表を行う
- 各班、発表時間 20 分＋質疑応答 5 分で発表を行う
- 発表者は「自己振り返りシート」に記入し提出する
- 他の履修者は、各班の発表について「発表評価シート」に記入し提出する
- 「発表評価シート」は各回で回収し、第 14 回の最後に各回の得点 1 位の班を発表する

■ 第 13 回：7 月 3 日(火)

場　所　：附属図書館 3 階共同研究室 5
参加者　：受講者 18 名　演習補助者 5 名
配布資料：発表スライド（3、2、5 班）/ 発表評価シート / 自己振り返りシート

- 3 班発表「ホロコースト ユダヤ人虐殺の背景」
- 2 班発表「宇宙開発と宇宙法」
- 5 班発表「日本国憲法において規定された象徴天皇の国民・GHQ・政府それぞれの視点からの捉え方」

  - 各班、北村准教授・松井教授からフィードバックを得た
  - 引用箇所については、最後に参考文献を掲載するだけではなく、その都度注をつけてはっきり示す必要がある

■ 第 14 回：7 月 10 日(火)

場　所　：附属図書館 3 階共同研究室 5
参加者　：受講者 18 名　演習補助者 5 名
配布資料：発表スライド（4、1、6 班）/ 発表評価シート / 自己振り返りシート

- 4 班発表「大震災にみる情報伝達とその課題～阪神淡路大震災に焦点を当てて～」
- 1 班発表「失われた 10 年からの経済復興」
- 6 班発表「20 世紀の長時間労働問題」

16:10-16:15
・全ての「発表評価シート」を集計し、各回の得点 1 位を発表した（特に 5 班が高評価）
・記入された「発表評価シート」を、各班へ配布した
・事務連絡（最終レポート、アンケート、半年後のフォローアップアンケート等）

文責：村上 史歩（第 11 回～14 回）、内田 栞（第 10 回）

□2018 年度の主な変更点

- 第 10 回、第 11 回の授業構成について
  - 昨年度、第 10 回の授業構成を見直したが、著作権クイズ、レビュー論文の構造分析を盛り込んだために、内容がぶつ切りになってしまったという反省があった。そのため、今回は北村先生の講義を 2 回に分け、第 10 回にグループ発表について、レビュー論文の構造分析、テーマ設定の方法、テーマ設定のためのブレーンストーミングについて、第 11 回に著作権クイズ、引用・参照のルールとポイントについてご講義いただいた。

- 発表テーマについて
  - 金子先生より昨年度までのテーマとしていた「21 世紀の課題」よりも「20 世紀の課題」としたほうが、過去の研究の蓄積があり、図書館のリソースを活用した調査がしやすいのではないか、という提案があり、「20 世紀の課題」を大テーマとして設定した。

- 発表について
  - 今年度は全体で 6 チームとなり、第 13 回に 3 チーム、第 14 回に 3 チームが発表を行った。

- 課題について
  - 昨年度を踏襲したが、レビュー論文の構造分析に関して、事前の予習シート（レビュー論文の〇章が、レビュー論文の一般的な構成のうちにどこにあたるのかを線で結ぶ簡単な課題）を作成し、授業内グループワークでは「箇条書き」で内容を要約することとした。
  - 情報環境機構の OSL リプレイスにより、印刷が有料となったため、各自で調査した論文を持ち寄る課題では「印刷して持参すること」とはせず、PandA へのアップロード等何らかの形でグループに共有できる方法で持参すること、と指示を変更した。
  - 著作権クイズを授業前に課題としてやってきてもらった。
  - 学習サポートデスクに相談に行く課題を課した。

- アンケートについて
  - 授業前と授業後で、授業の目標にどれくらい到達できたか問う質問を追加した。

□ 感想・反省等

- 第 10 回、第 11 回の授業構成について
  - 講義を 2 回に分けたことで、講義の流れが自然となり、良かった。第 11 回では予想以上に北村先生の講義に時間がかかったため、来年度は RefWorks に関する講義・課題説明の内容を削るなど、時間配分を調整する。
  - また初回授業で受講生に配布する講義構成について、現在第 10 回が講義、第 11 回以降が演習となっているが、来年度は第 10 回、第 11 回ともに「講義・演習」とするほうが望ましい。

- 発表テーマについて
  - 大テーマとして設定した「20 世紀の重要な問題」は受講生にとっては、非常に大きく馴染みが薄い印象だったのか、テーマを深めることに苦労している班が多かった。
  - 第10回の北村先生講義でテーマ設定の方法について当初予定していたよりも詳しく解説し、第12回のグループ発表に関する説明部分でも、先行研究の調査方法について解説を追加した。これらを行うことで、受講生がテーマ設定の方法や先行研究レビューの方法について、より理解を深めることができたと思う。
  - 発表のテーマを IN/DB 授業時に決めておくと、授業に一貫性ができ、受講生も早い段階から発表を意識することができるメリットがあるが、IN/DB との連続性について必ずしもテーマを連続させる必要はないのではないか、という意見

がチーム内で出された。来年度は IN/DB、総合演習合同で打合せを行い、テーマ設定について相談を行いたい。

- 大テーマが大きいので、もう少し小さいテーマを何個か提示して、希望をもとにグループ分けをしてもよいという案も出された。

➢ 課題について

- レビュー論文の構造分析に関して、予習シートを作成し、箇条書きで要点をまとめさせる点は良かったが、教材としてよりよいレビュー論文を探したほうがよい。
- 印刷して持参する、という指示をやめて、何らかの方法で持参するとしたが、特にグループワークにおいて大きな問題点はなかった。

➢ その他

- 第 10 回は、講義構成では「講義」となっているが、実際には演習の内容も含むため、第 10 回、第 11 回に関しては他チームからも補助に来てもらう方がよい。第 12 回からは補助者によって、アドバイスが異なることを防ぐため、補助者 1 人に対して班を割り振り、担当制とした。受講生の混乱も少なかったと思われるため、来年度も担当制とするとよい。

➢ アンケートについて

- アンケートを最終レポートとあわせて必須提出としたところ、発表者 18 名中 15 名から回答を得た。
- 平均値はそれぞれ理解度 3.73、有用度 4.13、難易度 4.20 であった。
- 昨年度は 7 段階評価であったが、今年度より 5 段階評価に変更した。
- 有用だと思うツールについては、「CiNiiArticles」「RefWorks」「新聞データベース」が多く、特に「CiNiiArticles」については、14 人が有用であったと回答した。
- 授業時間外にグループで話し合った時間について、「～2 時間」が最も多かった。しかし、発表準備期間が短いという意見も見られた。
- 用いた方法は「LINE」が最も多く、次いで「実際に集まった」が多かった。
- 予習については、1 名無回答があったものの、他 14 名は「予習した」と回答した。
- サポートデスクの利用については、利用したが 3 名に留まったが、利用した人は発表準備にあたって有用だったという感想であった。
- 授業前と比べて、授業の目標についてどれくらいできるようになったか尋ねたところ、「プレゼンの手法を身に付けることができた」以外は全て平均値が 4 を上回っており、本授業の到達目標に多くの受講生が到達できたと思われる。
- 授業を知ったきっかけについて、「シラバス」が最も多く、次いで「全学機構ガイダンス」が多かった。
- 受講理由について、「今後の研究・学習に役立ちそうだから」「図書館の利用法を知りたかったから」「授業内容に興味があったから」が多かった。
- 授業で特に良かった点について、「インターネットとデータベース」「院生の TA や図書館員の補助者がいたこと」「総合演習」が多かった。
- 授業全体について、5 名からコメント・提案を得た。全体として肯定的な意見が多く、1 回生のうちに受講しておいて良かったというコメントもあった。

（文責：内田　栞）